

地域づくり活動NPO事業助成事業 実績報告

事業区分 (3 204)

団体名	(一社)さんびいす	代表者名	(職名) (氏名) 代表理事 河口 紅
事業名	世代をつなぐコミュニケーションプロジェクト		

< 事業実施実績 >

年月日 <small>定例は「月1回」「毎○曜日」等で記入</small>	場所	参加者 一般 (スタッフ)	活動内容 (勉強会や定例会、講演会、イベントなどを幅広く記入) 講演会、イベント等はタイトル・講師・会場等を併記
10月24日	芦屋市役所東館	30 (2)	ワークショップ 「世代をつなぐコミュニケーションプロジェクト」 講師：河口 紅
11月13日	芦屋市役所分庁舎	38 (2)	ワークショップ 「世代をつなぐコミュニケーションプロジェクト」 講師：河口 紅
11月28日	芦屋市青少年センター	33 (2)	ワークショップ 「世代をつなぐコミュニケーションプロジェクト」 講師：河口 紅
2月21日	芦屋市民活動センター	8 (2)	講演会 (事業報告会と交流会) 「コミュニケーションを脳科学からとらえてみよう」 講師：森本 紀子

< 効果と成果 >

コミュニケーションに課題を感じていない層（無関心層）に直接呼びかけても、参加を促すのは困難である。そのため、本年度は「課題意識がない層」と日常的に接点を持つ愛護委員や民生委員の方々を対象としたワークショップを最優先に位置づけた。

委員の方々もまた、次世代などとの関わり方などに日々悩みを抱えている。本事業を通じて、委員の方々にこれまでのアプローチとは異なる「違いを知る」という視点でコミュニケーションを考えるグループワークを提供することで、単なる受講者ではなく、「共創する仲間」意識を生み出す効果となった。

「どうすれば無関心層を惹きつけられるか」を共に考え、来年度以降に実践する「仲間」としての意識醸成を図り、行政、ベテラン、次世代という、通常は縦割りになりがちな各レイヤーを「対話」のテーブルに集め、フラットな協力体制を構築した。これは、特定分野の支援に留まらない、地域全体の担い手不足を根本から解決するための「構造的な仕掛け」であり、通常業務の範囲を大きく超えるものと考えている。

当初あげていた「満足度80%以上」（アンケート回答）を大きく超える97%を達成できたことと、芦屋市職員からは「業務に活用できる」は100%の回答結果という成果をだせた。

< 今後の展望 >

1. 発見された課題

「無関心層」へのアプローチの難度：コミュニケーションに課題を感じていない層に対し従来の「地域活動」という枠組みでの動員は限界があることが再確認された。また愛護委員や民生委員など現場のリーダー層も次世代への接し方に悩みつつ、具体的な手法（共通言語）を持たないために従来のスタイルに固執せざるを得ない現状が浮き彫りとなった。

2. 今後の課題と取り組み

「地域のハブ」の機能強化：本年度「仲間」となった委員の方々と共に、無関心層が日常的に利用する場（小学校区のコミュニティ等）へ出向く「アウトリーチ型」の対話の場を企画したい。

共通言語の浸透と仕組み化：脳科学を用いたワークショップは「違いを面白がる」視点を生み出した。今後は特定のワークショップに留めず地域の日常的な会議や相談業務に導入し誰もが使えるツールとして定着させたい。

< 収支決算書 >

（収入）

項 目	金 額（円）
地域づくり活動NPO事業助成金	400,000
自己資金等	4,955
合 計	404,955

（支出）

区分	項 目	金 額（円）	左のうち 助成対象金額（円）
直 接 経 費	人件費	245,000	245,000
	謝金	20,000	20,000
	会議費	103,640	103,640
	小 計	368,640	368,640
	間接経費（一般管理費）	36,315	31,360
	合 計	404,955	400,000